（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコートちはら台　ユニット1		
所在地	千葉県市原市ちはら台9-11-4		
自己評価作成日	平成26年2月6日	評価結果市町村受理日	平成26年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5－6－12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成26年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お客様を主体とし、ひとりひとりとの日々の関わりの中で生活に対する希望や楽しみなどを共に見つける、さりげないケアを心掛けてお手伝いさせて頂いています。地域活動の輪へも積極的に加入し、お客様を交えて地域交流の場を作っていける様、努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「笑顔で元気」をスローガンに掲げ、利用者一人ひとりが笑顔で元気に日々過ごせるように一丸となり取り組んでいる。特に今年度は、地域のコミュニティセンターに出かけ、ゲートボール、ボッチャのスポーツ活動への参加や清掃活動、防災訓練、菊祭り等の地域行事にも積極的に参加をし、地域との交流を深めている。スポーツ活動や地域行事への参加を通じ日頃から身体を動かす機会が多くあることで、利用者の健康管理にもつながっている。また、事業所としても地域のパトロール活動や職員がマラソン大会に参加する等、地域と積極的に交流を図り、地域に根ざしたサービス提供に向け一丸となり取り組む姿勢が確認できた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての社是、経営理念を踏まえ、職員全体で考えた理念を基に実践しています。理念は共用部と事務所に掲示しています。	事業所では「笑顔で元気」をスローガンとして事務所や玄関に掲示し、職員、来訪者に周知している。スローガンについては、毎月開催される拠点会議の中で確認し職員の理解を深め、日々の支援につなげている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や民生委員と連携し、防犯パトロールなどの地域活動、福祉ネットワーク行事の他、可能な限りお客様とともに地域行事への参加を行なっています。	地域のコミュニティセンターに出かけ、ゲートボール、ボッチャのスポーツ活動への参加や、地域行事である、清掃活動や防災訓練に参加し交流を深めている。また、自治会防犯パトロールに職員が参加したり、、ボランティア（楽器演奏）の受け入れ、事業所行事への住民参加を呼び掛ける等、積極的に地域との交流を深めている。	今後は、保育園児との交流も検討しており、子ども達との交流の幅も広がっていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉ネットワーク行事へお客様と一緒に参加させて頂いています。また、地域包括との連携で認知症サポーター研修の実施を計画しています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質疑応答の形式で質問させて頂きアドバイスを頂いています。	運営推進会議には、市の高齢者福祉課、地域包括支援センター、民生委員、利用者、家族等の出席を受け、2カ月に一度開催している。会議では、入居状況や行事、研修報告及び意見交換等を通じ、サービス向上に活かしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に訪問させて頂き、空き状況や現状報告をさせて頂くほか、情報交換を行なっています。 また、ご担当者様に毎回運営推進会議へご参加頂いています。	市担当者とは日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。また、2ヶ月に1度開催される運営推進会議に市担当者が出席されており、事業所の近況を定期的に報告している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面の考慮から、玄関および階段の施錠を行なっています（エレベータで上下階を行き来する事は可能）	事業所内で「高齢者虐待、身体拘束について」の研修を行うなど、全職員が身体拘束をしないケアを正しく理解する機会を設け、その実践に取り組んでおり、現状、玄関の施錠を含めて、身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	実際にあった事例などを用いて掲示する他、研修を通じて意識付けを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイルを通じ、情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明点を残さないよう、途中途中にご質問を伺いながら進めています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の都度、ご家族様へご案内を送付させて頂き、参加を促しています。来訪時、運営推進会議の際など、常にご意見を伺えるよう心掛けています。	法人独自の顧客満足度調査を年1回実施し、家族の意見、要望を収集している。また来訪時、電話連絡時、ケアプラン説明時に意見、要望を聞く機会を設けそれらの意見は職員間で共有し、吟味して運営やケアプランに反映している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設を作るのは事務所だけでなく、お客様、職員を含めた全員であると考え、意見を常に集めつつ、拠点会議の際に全体で話し合い、検討をおこなっています。	雇用契約更新時の面談や日常的な声かけにより、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、拠点会議後（毎月開催）に各ユニットでユニット会議を開催し、それらの意見、提案については職員間で検討し日々の支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員個々の情報を総括し、環境改善を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修の他、外部研修の紹介を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある他事業所と交流を持ち、施設見学の他に情報交換などを行なっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分にとり状況、状態の変化など特に注意して把握に努め、職員間で情報の共有と対応を行なっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始に至る以前に要望や背景の把握に努め、ご利用開始してからも状況の変化などまめな報告を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、それまでいた病院、施設、家族からできるだけ多くの情報をもらい、今までの生活に近づけるようなサービスを心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要となるタイミングを見極め、必要に応じて介入、声かけ等を行なっています。家事等の日常生活で行なう事で信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やちょっとした用事など、可能な限りご来訪頂けるよう促しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	築いてきた交流を閉ざさない様、職員の他ご家族様との外出、また外泊の機会が増やせるよう働き掛けています。	馴染みの人との交流では、親戚や友人の来訪を受け入れているほか、家族と一緒に墓参りや外食、通い慣れた美容院への外出、さらには、盆や正月に自宅へ戻るなど、馴染みの場所との関係も途切れないよう、家族と協力して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できるような場を設け、共同作業などを通じよりよい関係が築けるよう働き掛けています。孤立してしまう方へは個別ケアを通じ、少しずつ他の方と距離を詰められるよう努めております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了したのちも気軽にご連絡頂ける様にお声かけし、その後のご様子などをお伺いしたり出来るようにしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される前の状況を可能な限りリサーチし、本人の意向に添える様努めています。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係者から今までの生活歴をお伺いし、従来の生活から可能な限りズレが無いよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日ごろの変化に注意を払い職員同士や家族も踏まえた情報交換ができる様にしています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直ししている他、変化があった場合は都度見直しを検討し、よりよい生活が行なえるようにしています。	アセスメント結果を踏まえ、ケアプランの原案を策定し、担当者会議において職員、家族、本人の意向を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを策定している。ケアプランの内容については毎月モニタリングを行い、達成状況を確認している。	今後に向けては、担当者会議に主治医の意見等についても盛り込み、他職種連携で進めていける事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや連絡ノート、会議などを通じて全職員が把握できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域行事へ参加している他、地域ボランティアが行なっている高齢者スポーツクラブなどへの参加も施設全体で取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や防犯パトロールなどへ積極的に参加し、地域住民と繋がりを持てるよう努めています。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関について入居前に説明させて頂き、ご家族様、主治医、施設で話し合い、今後の方針について納得頂いた上で受診して頂いています。	ホーム提携先医療機関による往診が月2回あるほか、主治医とは常に連携し、緊急時においても迅速に対応できる体制を整えている。利用者や家族の希望により入居前のかかりつけ医を継続する事も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ協力医療機関看護師や、施設看護師へ連絡を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は必要事項は入院先の担当医、看護師へ詳細な情報提供を行なっています。退院の際は今後の治療や注意事項について漏れが無いようヒアリングを行なっています。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来ること、出来ないことを明確に説明し、ご本人様とご家族様が納得された上で主治医を交えてケアの方向性を定めています。	重度化や終末期に向けた方針については契約時においてホームとして取り組めることを家族に伝え、できる限り早い段階で方針を説明している。また、重度化を向かえた際には、家族や主治医を交え協議し今後の支援方針を決定していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命講習を繰り返し受講し、急変時に慌てることなく対応できるよう努めています。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会の年に2回の防災訓練の他、施設内研修として様々な想定で避難訓練を行なっています。	消防署と連携し、夜間想定の通報・避難訓練を実施し、家族や民生委員の参加も得られた。民生委員は近隣の方という事もあり、災害の際には協力が得られる体制にある。また災害時の備蓄品として、飲料水、お米、食材、ガスコンロ、懐中電灯を備えている。	備蓄品の数量について再度確認される事や事業所周辺の水害の状況等についても把握されることに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の生活歴を把握した上で、敬う気持ちを持って対応を行なっています。	接遇、マナーについては申し送り時に話し合う機会をもち、全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が図れるように取り組んでいる。	事業所の研修計画では「プライバシー保護について」の研修予定があったが、未実施であった為、計画的に実施されることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、できる事をお客様と共に考え、お聞きして自己決定して頂ける様にしています。時間に添うのではなく、希望に沿った介護を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムに合わせ、希望によって入浴日を変更したり、食事時間を変更して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人とご家族様の希望で理美容を行なっています。衣類選定の相談、お手伝いを行なわせて頂いています。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から味付け、洗い物まで出来るだけ一緒に行なって頂けるようにお声かけしています。	食事の準備には利用者も関わりながら、職員と一緒に準備や後片付けを進めている。食事形態に関しては利用者の状態に応じて対応している。また外食に出かけたり、ホーム内で餃子パーティーの開催などを通じて食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作る献立で、バランスのとれたものを提供させて頂いています。水分量はある程度設定された量を下回らない様、声かけを含めた対応をさせて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師による口腔ケア指導を受け、毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄などを行ない清潔保持に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	過去の記録をさかのぼってひとりひとりの排泄間隔をおおよそ把握し、失敗する前のトイレ誘導を心掛けています。	利用者一人ひとりの排泄状況については個人記録内の排泄表に記入し、職員間で排泄パターンを共有している。日中は、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と運動の不足に留意しつつおおよその排泄間隔を把握することに努めています。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	目安となる入浴予定はありますが、当日の本人の体調、希望で変更を行なっています。	入浴については、目安となる入浴予定は作成しているが、利用者の要望に応じて、週2～3回入浴できるよう支援している。入浴中は職員も介助につき、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の日々の過ごし方を把握し、主治医に相談しながらリズムを崩さず安眠できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に主治医と担当薬剤師に立ち会って頂き、薬剤の説明と服薬の指導を頂いています。それを職員が把握しやすいよう、薬表を作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし、飽きのこない毎日が送れるように、職員それぞれがアイデアを出し、気分転換できるメニューを考えています、		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園へ散歩に出かけるのが日課となっていますが、買い物やドライブ、外食、外での行事などに出かけています。	日常としては事業所周辺や近隣の公園への散歩、買い物を通じて外出をしている。さらに地域のイベント参加や外食、ドライブ等の外出計画を立て計画的に外出できるように支援している。また、本人の希望を把握し、家族の協力も得ながら外食、ショッピングに出かけられるように支援している。	

グループホームガーデンコートちはら台（ユニット1）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合、お預かりしているお小遣いの中からご本人のほしいものを選んで購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望は希望時に対応しています。お手紙や年賀状が来た際はお返事を出せる様、お手伝いさせて頂いています。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用フロアに季節に合わせた装飾をし、ソファー等ゆったりとくつろげるようにしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせ装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様同士で共用フロアで雑談したり、ソファーや玄関の椅子などで一人の時間を過ごされています。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものを入居の際にお持ちいただけるようにご協力をお願いしています、	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かして、ご利用者様が居心地よく過ごせるように職員が整理整頓に努めるなど支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の出来ること、わかる事を職員が把握し、自立した生活が送れるように新聞や雑誌を読まれたり、掃除、配膳、洗濯などの声かけを行なっています。		